情報公開文書

臨床研究内容　ホームページ公開用

1. 研究課題名称

急性期脳卒中後におけるフレイルと自動車運転再開困難との関連

2. 研究の背景・目的

自動車運転は、移動の自立や社会参加を維持するために極めて重要な手段です。しかし、運転行動は周囲の環境に注意を払いながら、同時にアクセルやブレーキを制御する運動協調性が求められるマルチタスクな活動であり、安全な運転の遂行には迅速な意思決定や処理速度、十分な身体機能が不可欠となります。脳卒中の発症によって、運動麻痺や感覚障害、高次脳機能障害など多様な症状を呈することから、安全運転に必要な身体機能や認知機能に影響を与える可能性があります。特に近年、脳卒中患者において安全運転に影響を与える可能性のあるフレイルが着目されています。脳卒中患者は、発症前からの加齢変化に加え、発症による急性ストレスや治療に伴う活動量低下によって、フレイル状態へ移行する可能性が懸念されています。

脳卒中者では、バランスや歩行、遂行機能など複数の機能障害が認められ、これらの機能障害は運転能力に影響を及ぼします。脳卒中者は健常者と比較して遂行機能の低下が認められ、シミュレーションを用いた運転行動では、運転速度の遅延や速度調整の誤りが多く、ブレーキ反応時間の遅延、車線変更の困難さが認められます。そのため、脳卒中後のドライバーでは運転衝突事故のリスクが高いことが報告されています。健康な地域在住高齢者を対象とした研究では、自動車事故とフレイルの関連が報告されています。事故を起こさなかった群と比較して、事故を起こした群では、多変量調整後、フレイルとの正の関連が観察されています。しかしながら、脳卒中後のフレイルと自動車運転の再開との関連に対する明確な知見はいまだ乏しいです。そこで本研究の目的は、急性期脳卒中患者を対象として、脳卒中後のフレイルと自動車運転再開困難との関連を探索的に明らかにすることです。

3. 研究内容

カルテより以下の情報を収集します。収集した情報を分析し、脳卒中後のフレイルと自動車運転再開困難との関連を明らかにします。

観察項目

発症後のフレイル、自動車運転再開の可否、身体機能評価(筋力、麻痺の有無)など

4. 対象者および期間

対象は、2019 年 6 月から 2025 年 3 月の期間に当院にて発症 48 時間以内に脳卒中（脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血）の治療を受け、退院後に自動車運転を再開する希望があった患者を対象とします。

5. 個人情報の管理について

データの集計の際は患者名をコード化し、個人を特定できないように配慮します。また、研究終了後は 5 年間データ開示できるよう管理し、以降データを破棄します。

6. 研究期間

研究実施許可日から 2027 年 6 月 23 日までに実施します。

7. 医学上の貢献

フレイル評価は認知機能や身体機能を個別に評価する検査を代替するものではありませんが、運転再開支援においてリスク層別化を行うための補助的指標として有用である可能性があります。リハビリテーションにおける意思決定に役立つものと考えます。

8. 研究機関

製鉄記念八幡病院リハビリテーション部

9. 連絡先（研究責任者）

上記研究対象期間において該当になる方で研究に対して不都合がある場合や研究に対してご不明な点がございましたら下記の連絡先までご連絡ください。

製鉄記念八幡病院リハビリテーション部　原山永世
805-8508　北九州市八幡東区春の町 1-1-1　TEL:093-671-9318